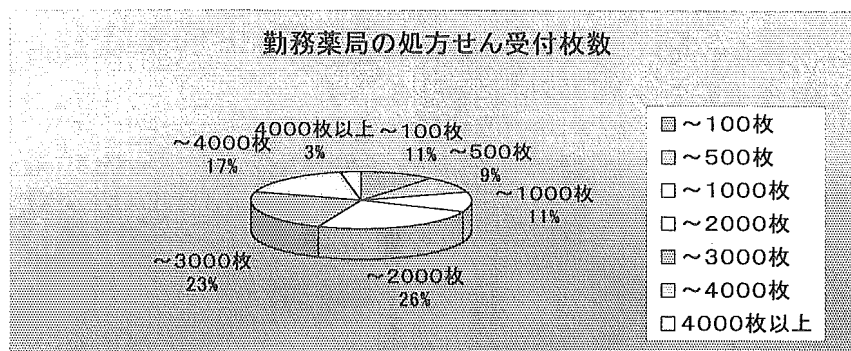


1) - 2 勤務薬局の基本情報

【勤務薬局の処方せん受付枚数】

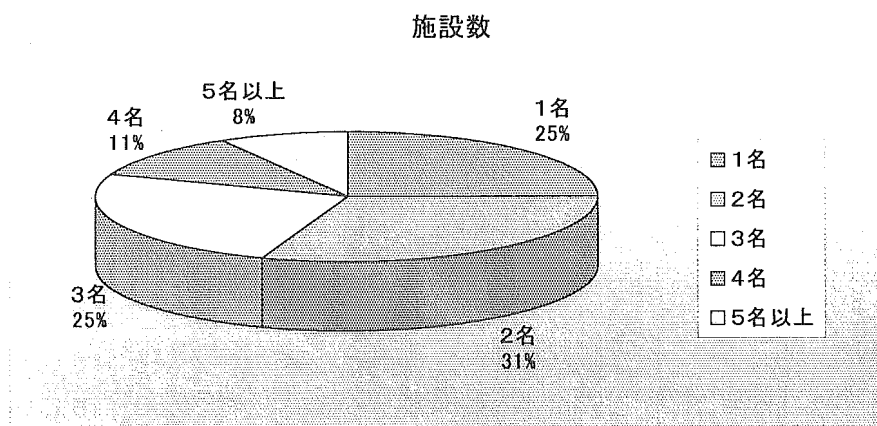
受付枚数	～100枚	～500枚	～1000枚	～2000枚	～3000枚	～4000枚	4000枚以上	合計
勤務人数	7	6	7	16	15	11	2	64
比率	10.9%	9.4%	10.9%	25.0%	23.4%	17.2%	3.1%	100%



処方せん受付枚数1000～2000枚の薬局が25%最も多く、次いで2000～3000枚の薬局が約23%となり、処方せん受付枚数500～3000枚の薬局で約59%となり、半数を占める。

【勤務薬剤師数】

薬剤師数	1名	2名	3名	4名	5名以上	合計
施設数	18	22	18	8	6	72
比率	25%	30.6%	25.0%	11.1%	8.3%	100.0%



2名の薬剤師が勤務する施設が最も多く、2～3名の施設で約52%を占めていたが、1名の施設も4分の1あった

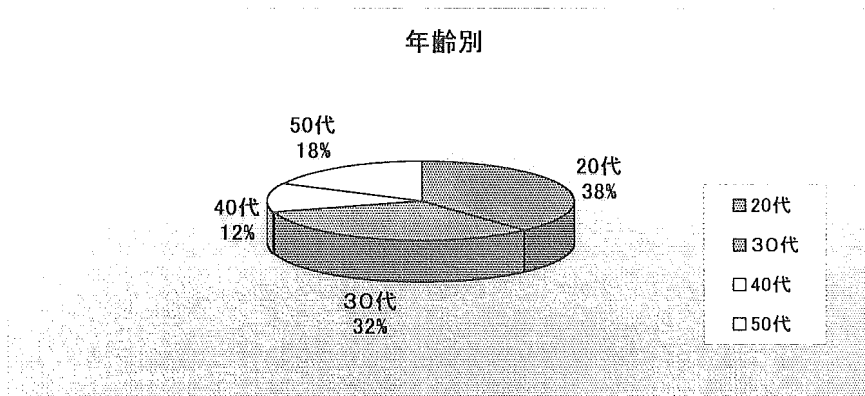
2) 病院薬剤師

2) - 1 病院薬剤師の基本情報

アンケート調査を実施した病院薬剤師の基本情報は、以下のものであった。

【年齢別】

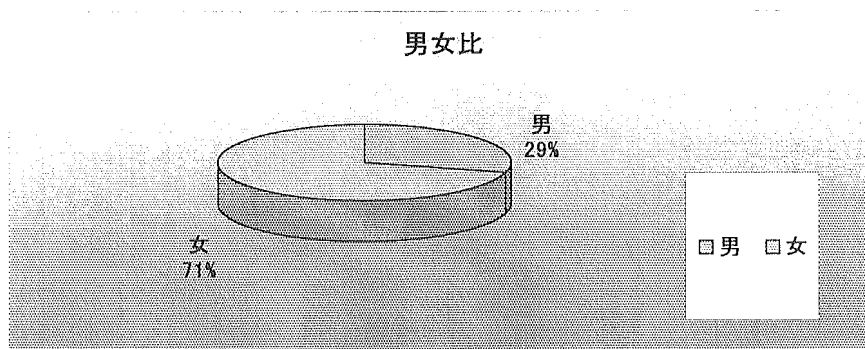
年代	20代	30代	40代	50代	合計
人数	13	11	4	6	34
比率	38.2%	32.4%	11.8%	17.6%	100.0%



病院薬剤師においては、20、30、40代それぞれバランス良く調査できていることが伺われた。

【男女比】

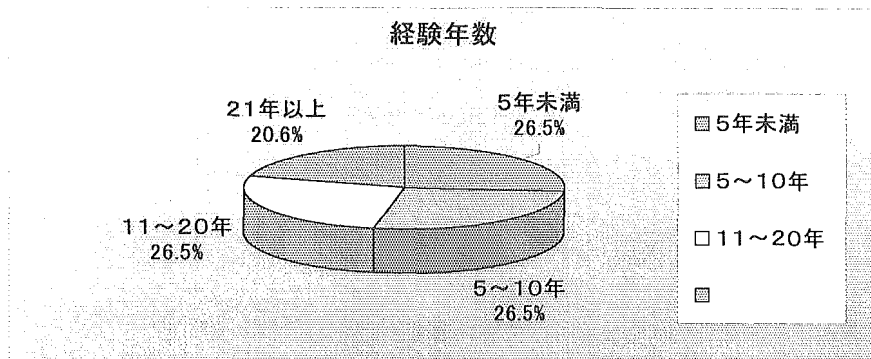
	男	女	合計
人数	10	24	34
比率	29.4%	70.6%	100.0%



病院薬剤師においても、女性が約71%と、過半数を占める。

【経験年数】

経験年数	5年未満	5～10年	11～20年	21年以上	合計
人数	9	9	9	7	34
比率	26.5%	26.5%	26.5%	20.6%	100.0%

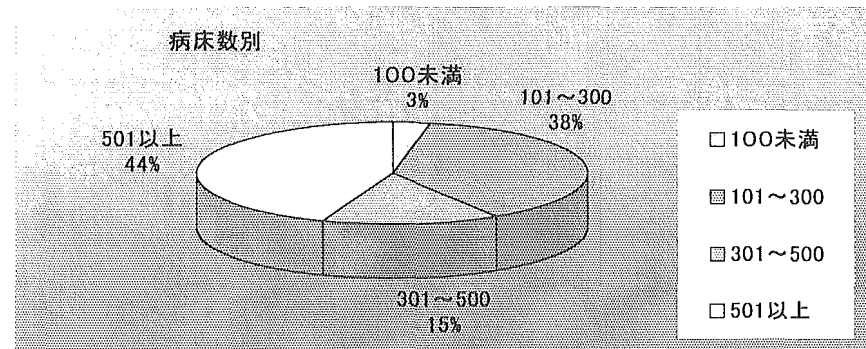


経験年数が5年未満から21年以上まで、だいたい均等な割合となっている。

2) - 2勤務病院の基本情報

【病床数別】

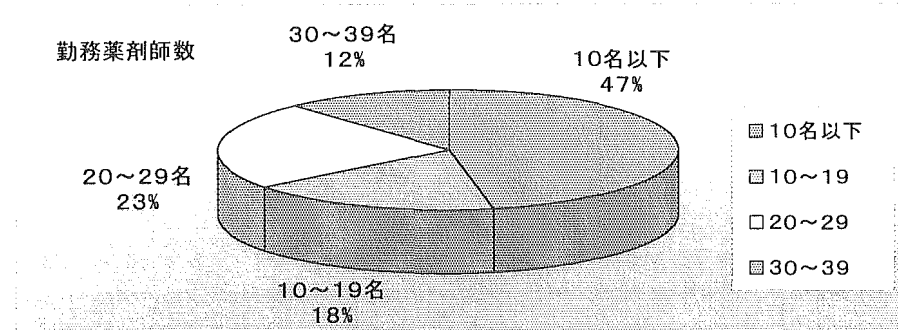
病床数	100未満	101～300	301～500	501以上	合計
病院数	1	13	5	15	34
比率	2.9%	38.2%	14.7%	44.1%	100.0%



病床数別で見ると、規模の大きな病院に集中することなく、調査できたことが伺えた。

【勤務薬剤師数】

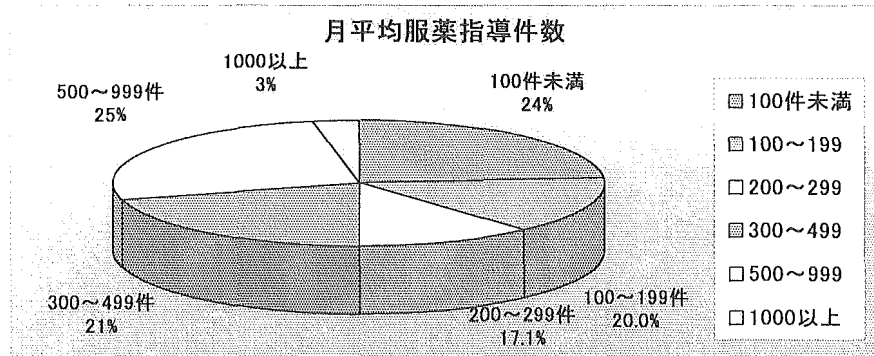
薬剤師数	10名以下	10～19	20～29	30～39	合計
施設数	16	6	8	4	34
比率	47.1%	17.6%	23.5%	11.8%	100.0%



20名未満の薬剤師が勤務する施設が約64%で過半数占めていた。

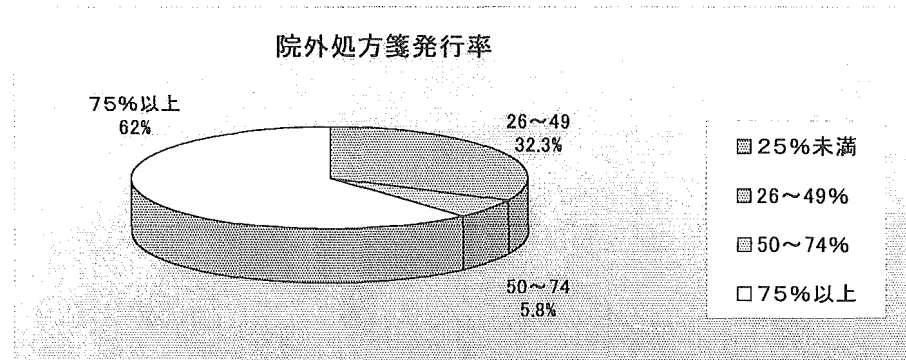
【月平均服薬指導件数】

	100件未満	100～199	200～299	300～499	500～999	1000以上	合計
施設数	8	5	4	7	9	1	34
比率	23.5%	2.0%	11.8%	20.6%	26.5%	2.9%	100.0%



【院外処方箋発行率】

	25%未満	26～49%	50～74%	75%以上	合計
施設数	0	11	2	21	34
比率	0.0%	32.3%	5.8%	61.8%	100.0%



最近の傾向を反映して、院外処方箋発行率の高い傾向が見られた。

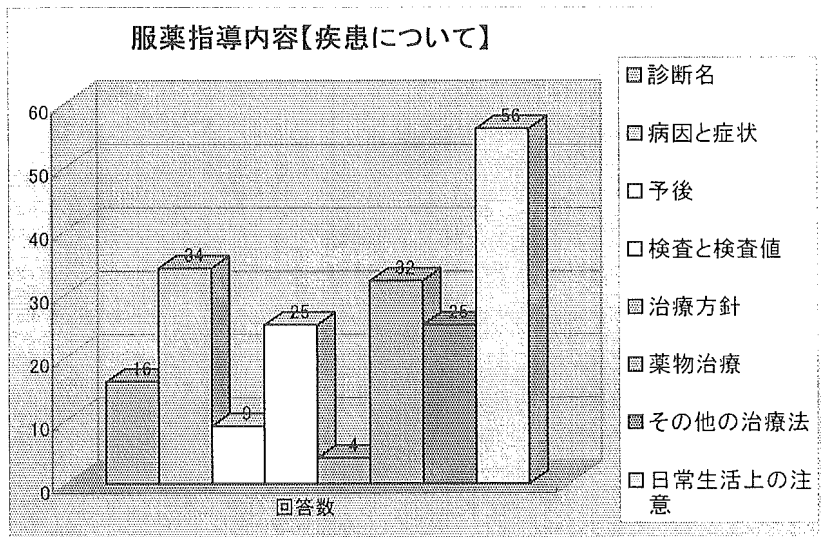
(2)「服薬指導業務の実施状況」アンケート集計結果

1. 服薬指導内容として、通常説明している内容。(複数回答可)

【疾患について】

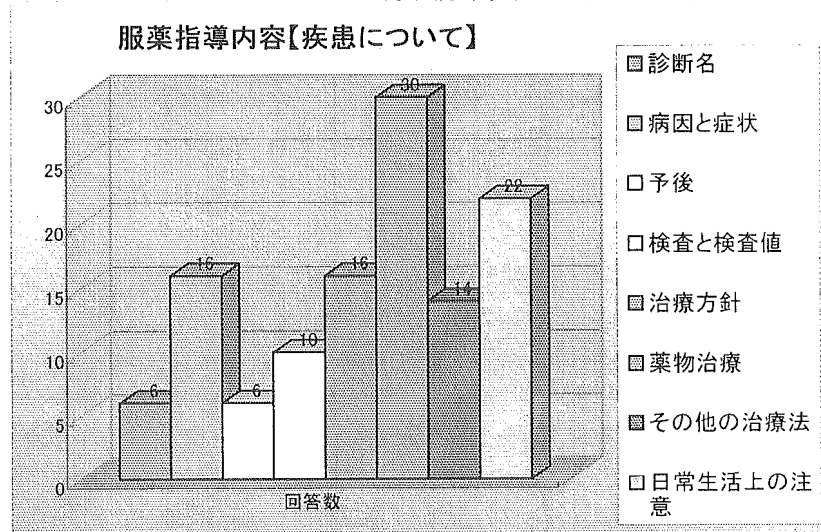
(薬局薬剤師)

服薬指導内容	回答数	比率
診断名	16	8.0%
病因と症状	34	16.9%
予後	9	4.5%
検査と検査値	25	12.4%
治療方針	4	2.0%
薬物治療	32	15.9%
その他の治療法	25	12.4%
日常生活上の注意	56	27.9%
合計	201	100.0%



(病院薬剤師)

服薬指導内容	回答数	比率
診断名	6	3.0%
病因と症状	16	8.0%
予後	6	3.0%
検査と検査値	10	5.0%
治療方針	16	8.0%
薬物治療	30	14.9%
その他の治療法	14	7.0%
日常生活上の注意	22	10.9%
合計	120	59.7%

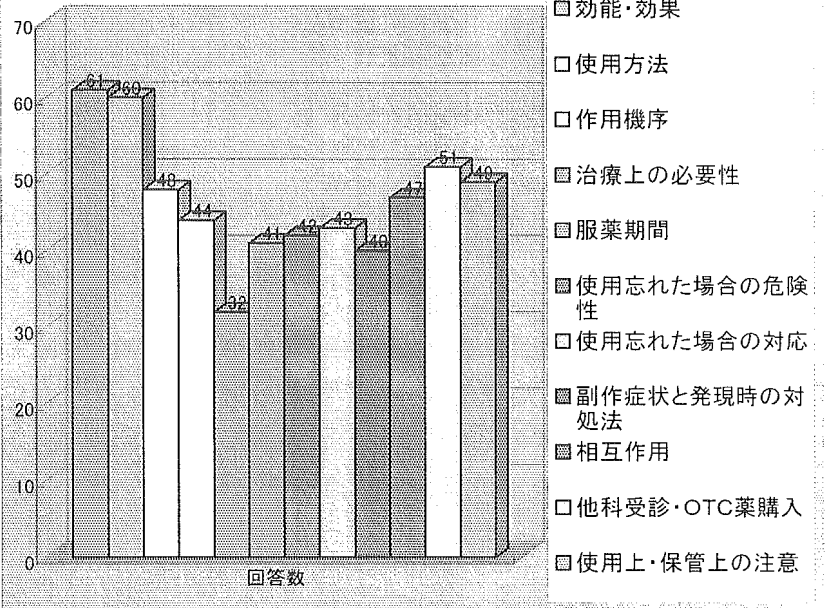


【薬剤について】

(薬局薬剤師)

服薬指導内容	回答数	比率
薬品名と形状	61	10.9%
効能・効果	60	10.8%
使用方法	48	8.6%
作用機序	44	7.9%
治療上の必要性	32	5.7%
服薬期間	41	7.3%
使用忘れた場合の危険性	42	7.5%
使用忘れた場合の対応	43	7.7%
副作用と発現時の対処法	40	7.2%
相互作用	47	8.4%
他科受診・OTC薬購入	51	9.1%
使用上・保管上の注意	49	8.8%
合計	558	100.0%

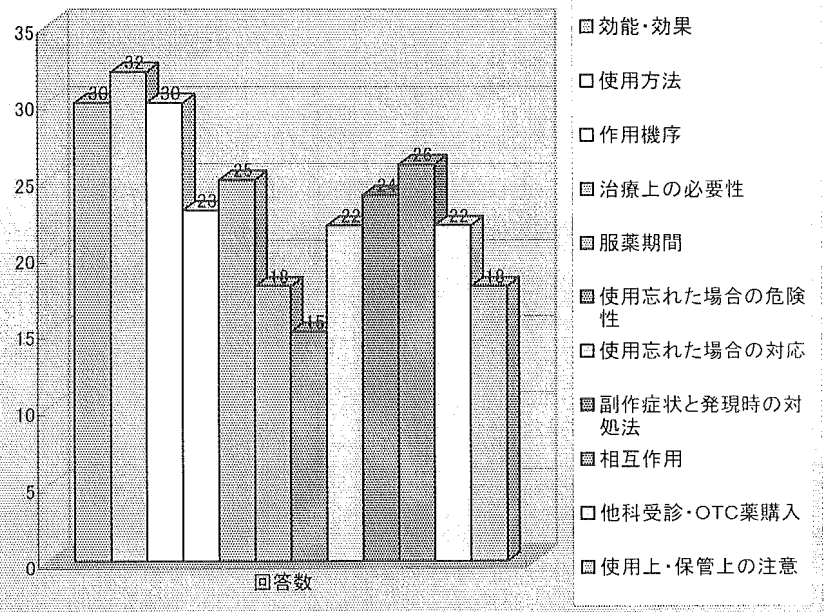
服薬指導内容【薬剤について】



(病院薬剤師)

服薬指導内容	回答数	比率
薬品名と形状	30	10.5%
効能・効果	32	11.2%
使用方法	30	10.5%
作用機序	23	8.1%
治療上の必要性	25	8.8%
服薬期間	18	6.3%
使用忘れた場合の危険性	15	5.3%
使用忘れた場合の対応	22	7.7%
副作用と発現時の対処法	24	8.4%
相互作用	26	9.1%
他科受診・OTC薬購入	22	7.7%
使用上・保管上の注意	18	6.3%
合計	285	100.0%

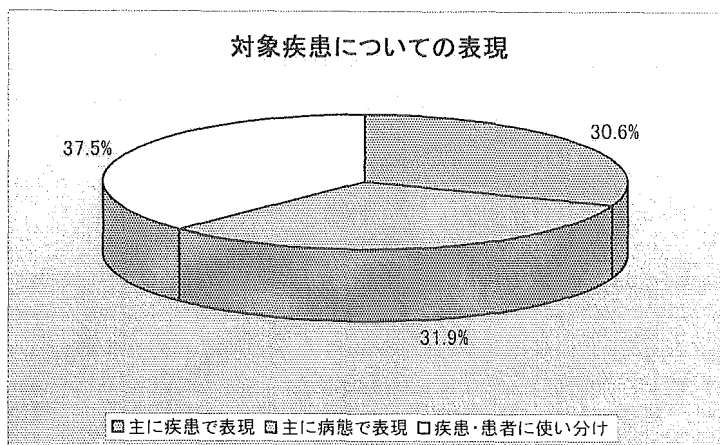
服薬指導内容【薬剤について】



2. 説明に際して、対象疾患に触れる場合、適応症名で表現していますか？
それとも、適応症名でなく病態で表現しますか？

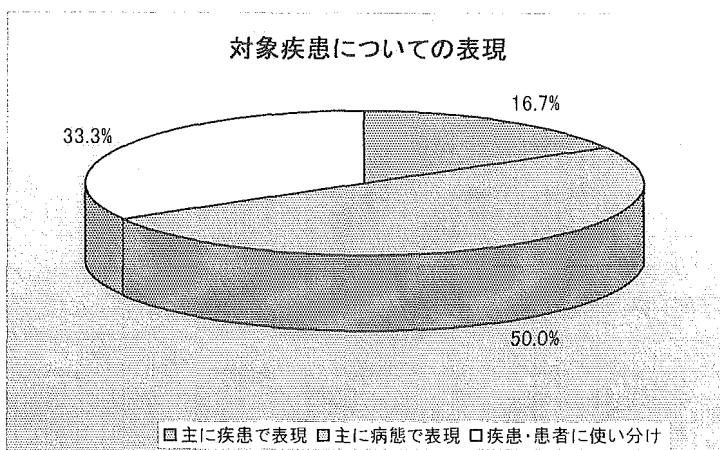
【薬局薬剤師】

表現	回答数	比率
主に疾患で表現	22	30.6%
主に病態で表現	23	31.9%
疾患・患者に使い分け	27	37.5%
合計	72	100.0%



【病院薬剤師】

表現	回答数	比率
主に疾患で表現	6	16.7%
主に病態で表現	18	50.0%
疾患・患者に使い分け	12	33.3%
合計	36	100.0%



疾患・患者に使い分けの具体例

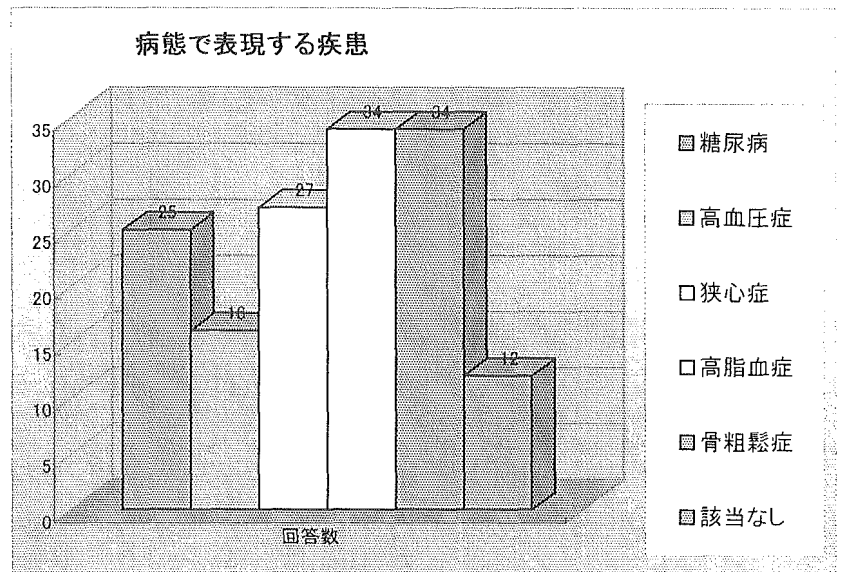
- ①病名を知っている患者に対しては、具体的な症状や病因などで表現
- ②病歴が長く、病名を知っている患者には、病名で表現
- ③病名によっては病態で説明(膀胱炎(女性患者)、更年期障害、前立腺肥大など)
- ④病名が理解できない患者に対して、詳しく病態や病因を説明
- ⑤患者の理解度によって説明
- ⑥アトピー性皮膚炎や喘息など、病名に過敏な反応をする親の場合は、病態で説明
- ⑦患者の性格、年齢、病状によって使い分けて説明
- ⑧癌患者の場合、告知しているかどうかまた患者の話(医師のムンテラの様子など)に対応して説明

3. 次の疾患のうち、主に病態で表現する疾患はどれですか。(複数回答可)

- ①糖尿病 ②高血圧症 ③狭心症 ④高脂血症 ⑤骨粗鬆症 ⑥該当なし
 その後に、患者さんに説明する病態の表現を記載して下さい。

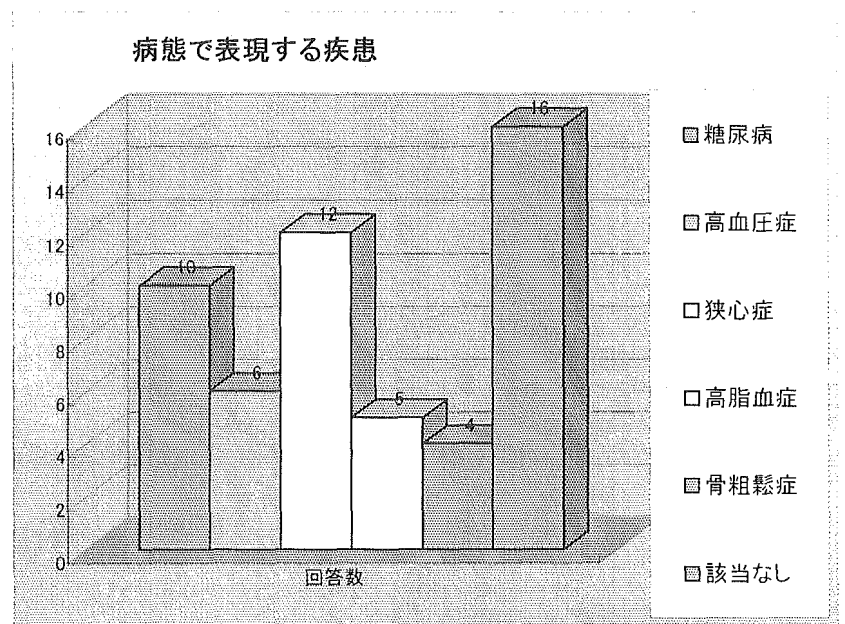
【薬局薬剤師】

疾患名	回答数	比率
糖尿病	25	16.9%
高血圧症	16	10.8%
狭心症	27	18.2%
高脂血症	34	23.0%
骨粗鬆症	34	23.0%
該当なし	12	8.1%
合計	148	100.0%



【病院薬剤師】

疾患名	回答数	比率
糖尿病	10	18.9%
高血圧症	6	11.3%
狭心症	12	22.6%
高脂血症	5	9.4%
骨粗鬆症	4	7.5%
該当なし	16	30.2%
合計	53	100.0%



糖尿病:

- ①インスリンの働きが低下して起きる病気
- ②血中の糖分が多くなっている状態
- ③インスリンの不足により、血液中の糖分は多くなり、尿中に出してしまう状態

高血圧症

- ①心臓や血管に負担がかかる状態

狭心症

- ①胸がドキドキしたり、心臓が苦しいと感じる状態
- ②心臓に栄養を与えている血管の動脈硬化や血栓により、胸痛が起きる病気

高脂血症

- ①血中のコレステロールや中性脂肪が高くなる病気
- ②血中のコレステロールや中性脂肪が高くなる病気、放っておくと、動脈硬化につながります。

骨粗鬆症

- ①骨量が減少して骨が軽石のようなになる病気
- ②骨のカルシウムの量が不足して、骨がもろくなった病気

表現様式と表現例

①病名

「糖尿病の治療薬です。」

②薬効＋病名

「血糖値を下げる働きのあるお薬です。食事療法や運動療法だけでは十分治療効果が得られない場合の糖尿病の治療に用います。」

③作用機序＋薬効＋病名

「主に膵臓のβ細胞を刺激して、内因性インスリンの分泌を促進し、血糖値を下げるお薬です。食事療法や運動療法だけでは十分治療効果が得られない場合の糖尿病に用います。」

④薬効＋予後

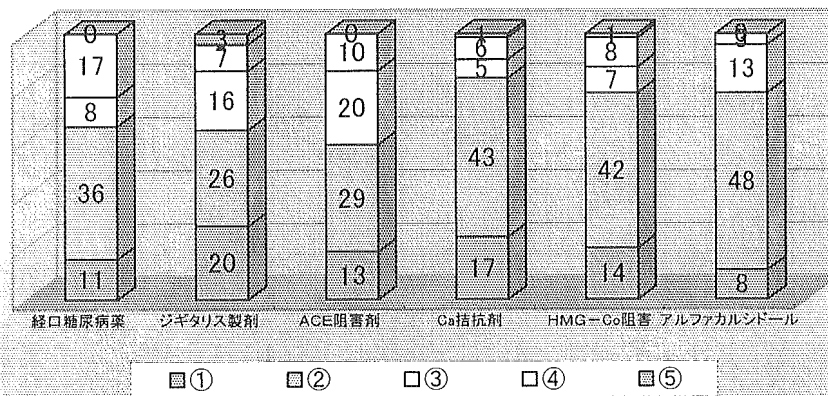
「血糖値を下げる働きのあるお薬です。不規則な服用をしていると、低血糖の危険性があり、また血糖が十分にコントロールできず合併症を併発する恐れがあります。」

⑤その他

【薬局薬剤師】

表現様式	経口糖尿病薬	ジギタリス製剤	ACE阻害剤	Ca拮抗剤	HMG-Co阻害	アルファカルシドール
①病名	11	20	13	17	14	8
②薬効＋病名	36	26	29	43	42	48
③作用機序＋薬効＋病名	8	16	20	5	7	13
④薬効＋予後	17	7	10	6	8	3
⑤その他	0	3	0	1	1	0
合計	72	72	72	72	72	72

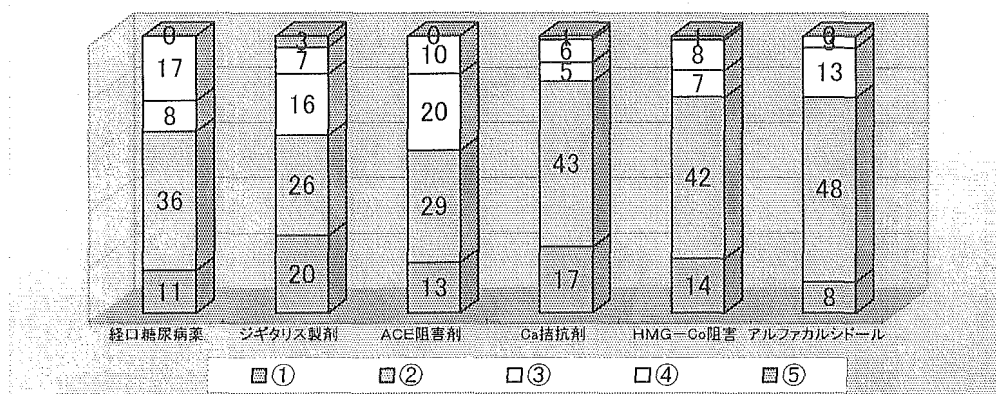
各薬剤の薬効表現



【病院薬剤師】

表現様式	経口糖尿病薬	ジギタリス製剤	ACE阻害剤	Ca拮抗剤	HMG-Co阻害	アルファカルシドール
①病名	4	4	4	5	3	4
②薬効+病名	13	13	13	18	20	13
③作用機序+薬効+病名	7	5	8	4	1	10
④薬効+予後	8	6	3	4	7	4
⑤その他	2	6	6	3	3	3
合計	34	34	34	34	34	34

各薬剤の薬効表現



5. ご回答頂いた服薬指導業務の実施状況について、特記すべき事項があればお教え下さい。
(例: 医師の要望、組織内のコンセンサスなど)

- ①作用機序など説明するのは、患者が要望する場合。
- ②服薬指導は患者個人によって、違うので、一律の表現が不可能である。
- ③医師より、患者が服薬をしなくなることが危惧されるので、副作用の話はしないように、言われている。
- ④年齢、性格、また患者の要望によって、服薬指導内容は変わる。したがって、薬歴の記録を参考に、それぞれの患者にあった服薬指導をする。
- ⑤患者との会話の中で、服薬指導は行われるので、一律の表現ではなく、いろいろな表現となる。

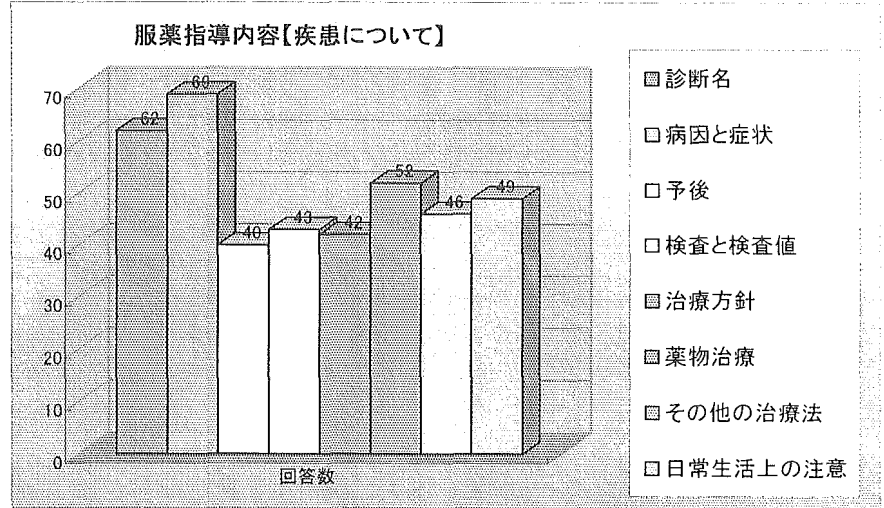
(3)「服薬指導業務に関する患者ニーズ」アンケート集計結果

1. 服薬指導内容として、患者が説明を求めていると思われる内容。(複数回答可)

【疾患について】

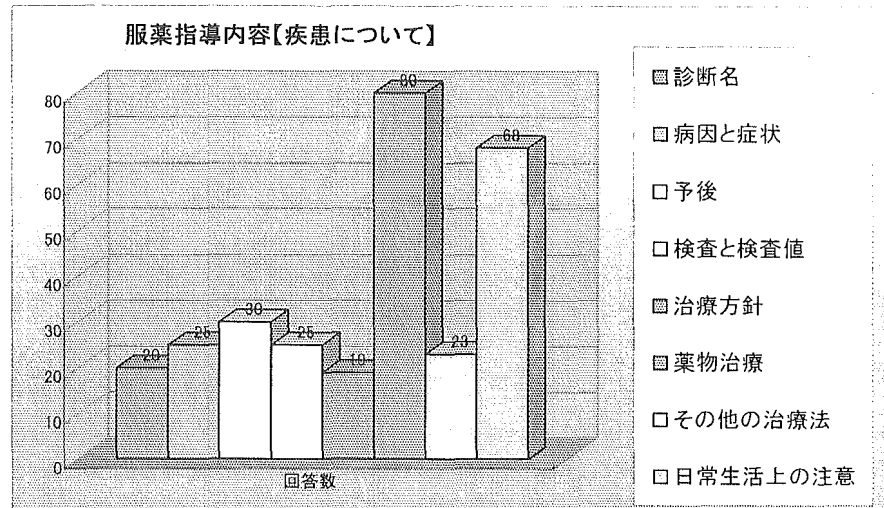
(薬局薬剤師)

服薬指導内容	回答数	比率
診断名	62	15.4%
病因と症状	69	17.1%
予後	40	9.9%
検査と検査値	43	10.7%
治療方針	42	10.4%
薬物治療	52	12.9%
その他の治療法	46	11.4%
日常生活上の注意	49	12.2%
合計	403	100.0%



(病院薬剤師)

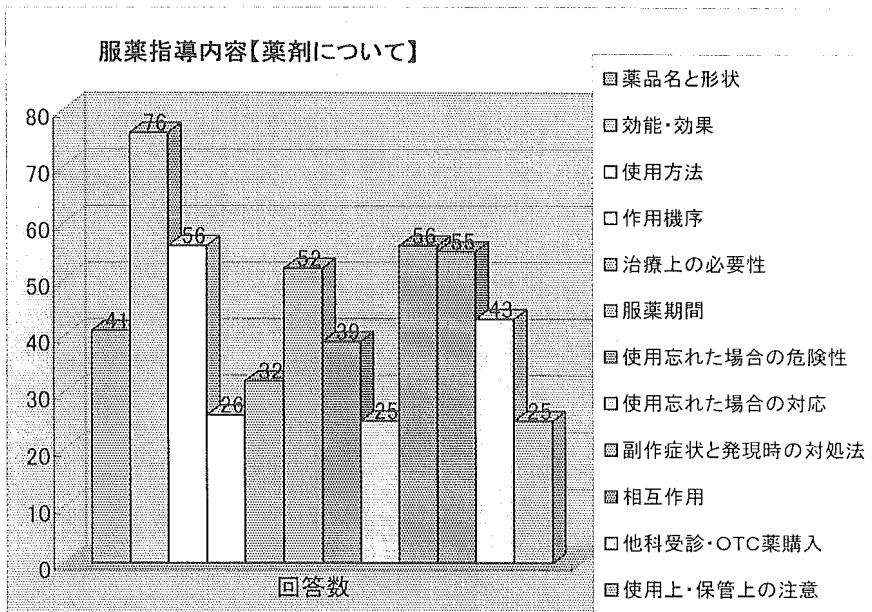
服薬指導内容	回答数	比率
診断名	20	6.9%
病因と症状	25	8.6%
予後	30	10.3%
検査と検査値	25	8.6%
治療方針	19	6.6%
薬物治療	80	27.6%
その他の治療法	23	7.9%
日常生活上の注意	68	23.4%
合計	290	100.0%



【薬剤について】

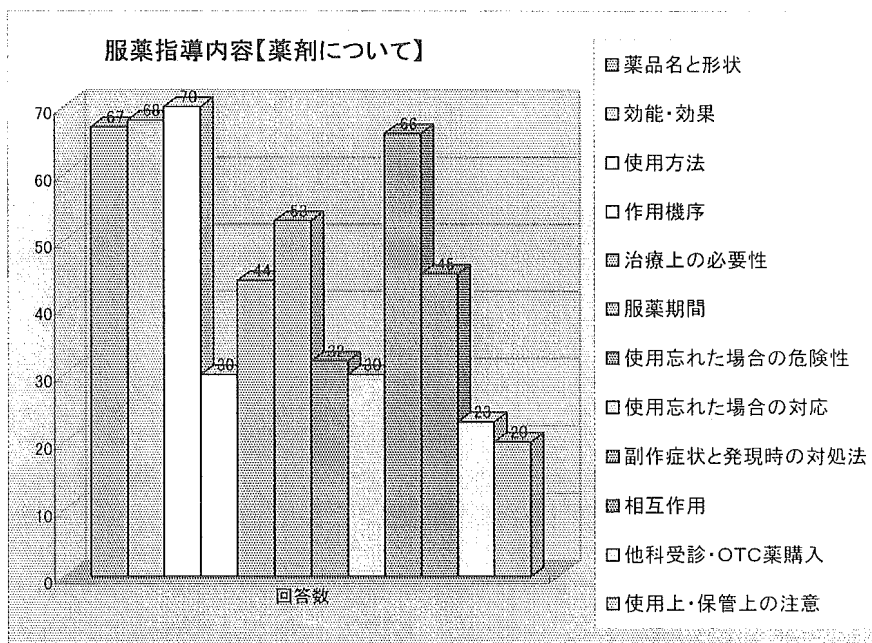
(薬局薬剤師)

服薬指導内容	回答数	比率
薬品名と形状	41	7.8%
効能・効果	76	14.4%
使用方法	56	10.6%
作用機序	26	4.9%
治療上の必要性	32	6.1%
服薬期間	52	9.9%
使用忘れた場合の危険性	39	7.4%
使用忘れた場合の対応	25	4.8%
副作用症状と発現時の対処法	56	10.6%
相互作用	55	10.5%
他科受診・OTC薬購入	43	8.2%
使用上・保管上の注意	25	4.8%
合計	526	100.0%



(病院薬剤師)

服薬指導内容	回答数	比率
薬品名と形状	67	12.2%
効能・効果	68	12.4%
使用方法	70	12.8%
作用機序	30	5.5%
治療上の必要性	44	8.0%
服薬期間	53	9.7%
使用忘れた場合の危険性	32	5.8%
使用忘れた場合の対応	30	5.5%
副作用症状と発現時の対処法	66	12.0%
相互作用	45	8.2%
他科受診・OTC薬購入	23	4.2%
使用上・保管上の注意	20	3.6%
合計	548	100.0%



2. 実際にどのような質問が、患者さんから多くありますか？また、頻度は少なくとも、服薬指導業務において重視すべき質問があれば教えて下さい。

【多くある質問】

- ① 飲食物との相互作用について
- ② 他科受診による併用薬、OTO薬との相互作用(交付後、電話での問い合わせなど)
- ③ 服薬期間(「どの位服用しなくてはならないか」「ずっと服用しなくてはならないのか?」「ずっと服用していると効かなくなるか?」)
(「一生服用しなくてはならないのか」)
- ④ 長期服用による副作用発現について
- ⑤ 副作用について(「この薬は強いですか?」など)
- ⑥ 小児の場合、薬の飲ませ方
- ⑦ 飲み残しの薬の処理などについて
- ⑧ 飲み忘れた場合の対応
- ⑨ 有効期限(「どの位もちますか?」など)
- ⑩ 外用塗布剤の使用法(塗布回数など)
- ⑪ 服用中止について(「症状がよくなったら中止していいか?」など)
- ⑫ 服用薬の数について(「どうしてこんなに沢山飲まなくてはいけないのか?」「飲まなくていい薬はないか?」など)
- ⑬ 効果発現までの時間や効果持続時間など
- ⑭ 処方変更があった場合に、それまで服用していた薬との違い

【重要視すべき質問】

- ① 飲食物、健康食品等との相互作用について
- ② 小児の場合、薬の飲ませ方
- ③ 癌患者の質問
- ④ 妊婦、授乳婦の質問(「妊娠しているかもしれないが服用しても大丈夫か?」など)
- ⑤ 薬効や治療上の必要性(「医師からの説明がなくなぜ服用しなければならないのか分からない」「医師は忙しく説明してくれない」)
- ⑥ 服用中止について(「薬を服用したくない。服用しなくてもいいか」)
- ⑦ 同じ病気の人に薬を譲ってもいいか

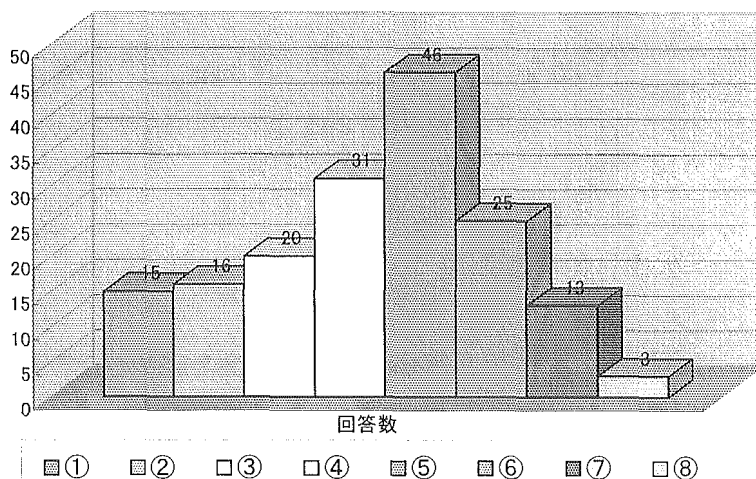
3. 効能・効果、予後など有効性に関わる内容について、患者さんの心情はどのようなものがあると思いますか？(複数回答可)

- ① 服用している薬剤の効能・効果は、自分の病気に関係ないものでも、すべて知りたい。
- ② 自分の病気に関係のない効能・効果、説明はいらぬ。(知らない方がいい)
- ③ 効能・効果について、どのような作用で効くのか(作用機序など)、詳しく知りたい。
- ④ 効能・効果について、詳しい作用などの説明はいらぬ。何の病気の薬か分かればよい。
- ⑤ どの位の服用期間を必要とするのか、服用により予後はどのようになるか、知りたい。
- ⑥ 服用していないと、どのような状態になるのか、知りたい。
- ⑦ 使い方され分かれば、詳しくの説明などはいらぬ。
- ⑧ その他()

【薬局薬剤師】

患者心情	回答数	比率
①	15	8.9%
②	16	9.5%
③	20	11.8%
④	31	18.3%
⑤	46	27.2%
⑥	25	14.8%
⑦	13	7.7%
⑧	3	1.8%
合計	169	100.0%

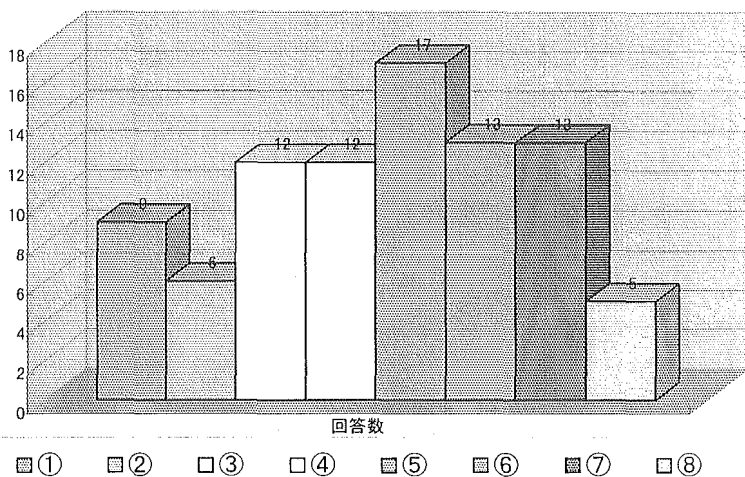
「有効性の説明」に対する患者心情



【病院薬剤師】

患者心情	回答数	比率
①	9	10.3%
②	6	6.9%
③	12	13.8%
④	12	13.8%
⑤	17	19.5%
⑥	13	14.9%
⑦	13	14.9%
⑧	5	5.7%
合計	87	100.0%

「有効性の説明」に対する患者心情



「服薬指導の実施状況と患者ニーズ」に関するアンケート

(1) 回答者情報

【年齢】 ①20歳代 ②30歳代 ③40歳代 ④50歳代 ⑤50歳代以上

【性別】 ①男 ②女

【経験年数】 ①5年未満 ②5～10年 ③11～20年 ④21年以上

【勤務環境】

(病院の場合)

病床数：_____床 薬剤師数：常勤_____名 非常勤_____名

服薬指導を行っている薬剤師数：_____名 服薬指導件数：月平均_____件

院外処方せん発行率：_____%

(薬局の場合)

薬剤師数：常勤_____名 非常勤_____名

処方せん受付枚数：月平均_____枚 処方せん発行医療機関数：約_____機関

(2) 服薬指導業務の実施状況

1) 服薬指導内容として、通常説明している内容に○印を付けて下さい。(複数回答可)

【疾患について】

- ①診断名 ②病因と症状 ③予後 ④検査と検査値 ⑤治療方針
⑥薬物治療 ⑦その他の治療法(食事療法、運動療法) ⑧日常生活上の注意

【薬剤について】

- ①薬品名と形状 ②効能・効果 ③使用方法 ④作用機序 ⑤治療上の必要性
⑥服薬期間 ⑦使用忘れた場合の危険性 ⑧使用忘れた場合の対応
⑨副作用症状と発現時の対処方法 ⑩相互作用(薬物、食物・嗜好品)
⑪他科受診及び一般用医薬品購入時の注意 ⑫使用上及び保管上の注意

2) 説明に際して、対象疾患に触れる場合、適応症名で表現していますか？それとも、適応症名でなく病態で表現しますか？該当する番号に○印を付けて下さい。

例) 適応症名での表現：「糖尿病」

病態での表現：「インスリンというホルモンの不足により代謝異常が起こり、血液中の糖分が多く状態なった状態」

- ①主に適応症名で表現 ②主に病態で表現 ③疾患や患者により表現を使い分け
(③の場合の具体例：_____)

3) 次の疾患のうち、主に病態で表現する疾患はどれですか。該当する記号を記載し、その後に、患者さんに説明する病態の表現を記載して下さい。(複数回答可)

- ①糖尿病 ②高血圧症 ③狭心症 ④高脂血症 ⑤骨粗鬆症 ⑥該当なし

4) 次の薬剤の薬効説明について、実施している表現に近いものに○印を付けて下さい。

【経口糖尿病薬】

- ①「糖尿病の治療薬です。」
②「血糖値を下げる働きのあるお薬です。食事療法や運動療法だけでは十分治療効果が得られない場合の糖尿病の治療に用います。」
③「主に膵臓のβ細胞を刺激して、内因性インスリンの分泌を促進し、血糖値を下げるお薬です。食事療法や運動療法だけでは十分治療効果が得られない場合の糖尿病に用います。」
④「血糖値を下げる働きのあるお薬です。不規則な服用をしていると、低血糖の危険性があり、また血糖が十分にコントロールできず合併症を併発する恐れがあります。」
⑤その他「」

【ジギタリス製剤】

- ①「うっ血性心不全や頻脈の治療薬です。」
②「心臓から送り出す血液量を増やし、心臓のうっ血や浮腫を改善し、また頻脈の脈拍数とリズムと調節する働きがあり、うっ血性心不全や頻脈の治療に用います。」
③「心臓の筋肉に直接作用し、その収縮力を増大させることにより、弱った心臓の動きを回復させ、心臓から送り出す血液量を増やし、心臓のうっ血や浮腫を改善します。また心臓の刺激伝達を抑える等の作用により頻脈の脈拍数とリズムと調節します。」
④「心臓から送り出す血液量を増やし、また頻脈の脈拍数とリズムと調節する働きなどにより、うっ血性心不全や頻脈に用いるお薬です。服用を中断すると、血液の中の薬の濃度が効果を現すのに必要な量に達せず、十分効果が得られず、症状が再発したり、悪化してしまいますことがあります。」
⑤その他「」

【ACE阻害剤（エナラプリル）】

- ①「高血圧症や慢性心不全（軽症～中等症）の治療薬です。」
②「血圧を下げたり、心臓の負担を減らす働きがあり、高血圧症や慢性心不全の症状（むくみ、動悸、息切れ、だるさ等）を和らげるのに用います。」

- ③「体内で血圧を上げる働きをしている物質（アンジオテンシンⅡ）の体内産生を抑え、血圧を下げたり、心臓の負担を軽減する働きがあり、血圧を下げたり、心臓の負担を減らす働きがあり、高血圧症や慢性心不全の症状（むくみ、動悸、息切れ、だるさ等）を和らげるのに用います。」
- ④「血圧を下げたり、心臓の負担を減らす働きがあり、高血圧症や慢性心不全の症状（むくみ、動悸、息切れ、だるさ等）を和らげるのに用います。服用を中断すると、十分効果が得られず、病状が悪化する場合があります。」
- ⑤その他「 」

【Ca拮抗剤】

- ①「高血圧症や狭心症の治療薬です。」
- ②「全身の血管を拡張し血圧を下げたり、冠血管を拡張させ心筋の酸素不足を解消し、高血圧症や狭心症の治療に用います。」
- ③「血管などの筋の収縮に関連するカルシウムイオンの血管平滑筋及び心筋細胞内への流入するのを抑え、全身の血管を拡張し血圧を下げたり、冠血管を拡張させ心筋の酸素不足を解消し、高血圧症や狭心症の治療に用います。」
- ④「全身の血管を拡張し血圧を下げたり、冠血管を拡張させ心筋の酸素不足を解消し、高血圧症や狭心症の治療に用います。服用を中断すると十分な効果が得られず、血圧が上がるなど病状が悪化し、いろいろな臓器に血行障害による二次性変化が起きる恐れがあります。」
- ⑤その他「 」

【HMG-CoA還元酵素阻害剤】

- ①「高脂血症やコレステロール血症の治療薬です。」
- ②「血液中のコレステロールを低下させる働きがあり、高脂血症やコレステロール血症の治療に用います。」
- ③「コレステロールを主に合成する肝臓や小腸で合成に必要な酵素（HMG-CoA還元酵素）を阻害し、細胞内のコレステロール合成を抑える働きがあり、その結果、血液中のコレステロールが低下し、高脂血症やコレステロール血症を改善します。」
- ④「血液中のコレステロールを低下させる働きがあり、高脂血症やコレステロール血症の治療に用います。服用を中断すると十分な効果が得られず、血液中のコレステロールが多過となり、動脈硬化が進行する恐れがあります。」
- ⑤その他「 」

【アルファカルシドール製剤】

- ①「骨粗鬆症や慢性腎不全等での骨痛等の治療薬です。」
- ②「このお薬は、強い骨や歯を作るのに必要なビタミンDで、骨粗鬆症等で骨が減ったり、折れたりするのを防ぎ、骨の痛みを改善します。」

- ③「小腸からのカルシウムの吸収や腎でのカルシウムの再吸収を促進し、骨の形成を促し、骨粗鬆症や慢性腎不全等での骨痛等の症状を改善します。」
- ④「強い骨や歯を作るのに必要なビタミンDで、骨粗鬆症等で骨が減ったり、折れたりするのを防ぎ、骨の痛みを改善します。服用を中断すると十分な効果が得られず、骨や歯がもろくなるのを防ぐことができなくなる恐れがあります。」
- ⑤その他「

5) ご回答頂いた服薬指導業務の実施状況について、特記すべき事項があればお教え下さい。(例：医師の要望、組織内のコンセンサスなど)

(3) 服薬指導業務に対する患者ニーズ

1) 以下の内容について、患者さんが、服薬指導の際、説明を求めていると思われる内容を優先順位の高い順に並べて下さい。

【疾患について】

- ①診断名 ②病因と症状 ③予後 ④検査と検査値 ⑤治療方針
- ⑥薬物治療 ⑦その他の治療法（食事療法、運動療法） ⑧日常生活上の注意

より知りたい ←

【薬剤について】

- ①薬品名と形状 ②効能・効果 ③使用方法 ④作用機序 ⑤治療上の必要性
- ⑥服薬期間 ⑦使用忘れた場合の危険性 ⑧使用忘れた場合の対応
- ⑨副作用症状と発現時の対処方法 ⑩相互作用（薬物 食物・嗜好品）
- ⑪他科受診及び一般用医薬品購入時の注意 ⑫使用上及び保管上の注意

より知りたい ←

2) 実際にどのような質問が、患者さんから多くありますか？また、頻度は少なくても、服薬指導業務において重視すべき質問があれば教えてください。

【多くある質問】

【重視すべき質問】

3) 効能・効果、予後など有効性に関わる内容について、患者さんの心情はどのようなものがあると思いますか？（複数回答可）

①服用している薬剤の効能・効果は、自分の病気に関係ないものでも、すべて知りたい。

②自分の病気に関係のない効能・効果、説明はいらぬ。(知らない方がいい。)

③効能・効果について、どのような作用で効くのか（作用機序など）、詳しく知りたい。

④効能・効果について、詳しい作用などの説明はいらぬ。何の病気の薬か分かればよい。

⑤どの位の服用期間を必要とするのか、服用により予後はどのようなになるか、知りたい。

⑥服用していないと、どのような状態になるのか、知りたい。

⑦使い方され分かれば、詳しくの説明などはいらぬ。

⑧その他（)

(4) ご意見・ご要望

本研究事業は、患者さんが求める医薬品情報の整備充足を図り、患者さんが医薬品の使用目的と必要性を正しく理解して積極的に自らの医療への参画、服薬コンプライアンスの向上、さらには薬物療法の効率化を図ることを目標としています。日頃より、臨床現場でご活躍の先生方に、本事業について、ご意見・ご要望などございましたら、お聞かせ頂くようお願い申し上げます。

ご多忙の中、ご協力ありがとうございました。